

平成二二年三月三〇日宣告 裁判所書記官 安田修
 平成二二年(5)第四号

判 決

本 籍 金沢市東力二丁目二八番地二
 住 居 同市北安江町四七九番地九
 職 業 無職(元建設作業員)

廣 野 秀 樹

昭和三九年一月二六日生

右の者に対する傷害被告事件について、平成一一年一月二一日金沢地方裁判所
 が言い渡した判決に対し、被告人から控訴の申立てがあったので、当裁判所は、検
 察官松浦由記夫出席の上審理し、次のとおり判決する。

主 文

本件控訴を棄却する。

一頁

二頁

当審における未決勾留日数中四〇日を原判決の刑に算入する。

理 由

本件控訴の趣意は弁護人小堀秀行作成名義の控訴趣意書、被告人作成名義の「弁
 護趣意書」と題する書面のとおりであるから、これらを引用する。控訴趣意の論旨
 は、被告人を懲役一年八か月に処した原判決の量刑は重過ぎるというものである
 (なお、右被告人作成名義の書面には、本件は公訴が棄却されるべきであったかの
 ようにいう記載があるが、一件記録を精査しても、本件公訴を棄却すべき事情の存
 在はうかがわれない。)。

そこで、原審記録を調査し、当審の事実取調べの結果をも加えて検討する。

本件は、被告人が、夜間、スーパーマーケットの駐車場で、被害者に対し、その
 顔面を手拳で複数回殴打して転倒させたり、その前頭部付近を足げにしたりする暴
 行を加え、傷害を負わせたという事案である。被告人が右犯行に及んだ直接のきつ
 かけは、直前に被害者から「犯罪者」などと言われたことにカッとなったためであ

るが、被告人は、以前、被害者の娘から交際を拒否されたことに腹を立て、同女の顔を殴打するなどした上、同女の顔を蹴り付けて側頭部をアスファルト舗装の路面に打ち付けさせるなどの暴行を加えて同女に全治期間不明の頭蓋骨折、下顎骨折、急性硬膜下血腫等の傷害を負わせ、更に同女が右傷害により抗拒不能であるのに乗じて同女を姦淫したという傷害、準強姦の罪を犯し、服役したところ、出所後、同女と接触しようとして、繰り返し同女方に電話をかけるなどし、これに対し被害者は、同女の父親として、同女と被告人を接触させないようにすべく、種々工夫したものの、被告人の執拗な対応にほとほと困り果て、被告人と会って話をしているうち、被告人に対する怒りが募り、先のような言葉を発するに至ったものであって、その心情には誠に察すべきものがある。このような経緯に徴すれば、被告人の本件犯行に酌むべきものがあるとはいえない。被害者の処罰感情は大変厳しい。被告人には、前記のとおりの前科があるのに、その執行終了後二年半余にして本件犯行に及んだもので、その規範意識の鈍麻の程も看過できない。このような事情に

三頁

照らすと、被告人の刑責は重い。

四頁

そうすると、幸いにして本件の傷害の程度は通院加療約一〇日間を要する頭部顔面打撲、口内裂傷、両肘擦過傷と比較的軽微なものに止まったこと、事実は認めていることなどの被告人にとって酌むべき事情を考慮しても、被告人を懲役一年八か月に処した原判決の量刑が重過ぎて不当とまではいえない。論旨は理由がない。

よって、刑訴法三九六条により本件控訴を棄却し、刑法二一条を適用して当審における未決勾留日数中四〇日を原判決の刑に算入し、当審における訴訟費用については刑訴法一八一条一項ただし書を適用して被告人に負担させないこととして、主文のとおり判決する。

平成一二年三月三〇日

名古屋高等裁判所金沢支部第二部

裁判長裁判官

前原捷一郎

裁判官

氣賀澤耕一

裁判官

山口裕之